

## 75歳以上の窓口負担引き上げをめぐる構図

全世代型社会保障改革はパッケージ。  
年末の中間報告や来年夏の最終報告  
に向けて調整を

安倍晋三首相

### 中間報告で決着派

働き方・年金・医療・介護の改革をパッケージで決定し、将来の社会保障制度の全体像を示すべきだ

全世代型社保会議の有識者メンバーほぼ全員が「中間報告で方向性を」と言っている

75歳以上が急増する2022年度に改革を間に合わせるべきだ

### 最終報告で決着派

「骨太の方針」で、医療は来年夏に取りまとめるとしている

高齢者の生活実態などを踏まえた丁寧な議論が必要

「桜を見る会」問題がある中で負担増を示せば国会審議や次の衆院選で政権がもたない

## 75歳以上の医療費負担増

# 中間報告で「決着」

## 政府内でも賛否

政府の全世代型社会保障検討会議が今月中旬に取りまとめる中間報告で、医療制度改革の具体案を示すかどうか、政府・与党でせめぎ合いが続いている。75歳以上の受診時の窓口負担を「原則1割」から「原則2割」に引き上げることなどに道筋をつけるべきだと主張と、来年夏の最終報告まで慎重に検討するよう求める意見がぶつかる。公明党は2日、全世代型社会保険推進本部の会合を開いた。

石田祝（政調会長）は終了後、窓口負担の原則2割への引き上げなどに前向きだ。財務省は、団塊の世代が75歳以上になり始める2022年が迫る中、医療費を抑える仕組みを早く整えるべきだと考へて、来年の通年が党としての結論ではない」と念を押した。自民党の議論も足踏みが続く。

両党は当初、11月中旬に提言をまとめる予定だった。しかし、政府側から社会保障改革の日程や、原則2割にした場合などの試算が示されないため、ずれ込んでいた。今後、安倍晋三首相の判断が示された場合に、翻訳が生じてはいけないと相の思惑もある。

政府内では、いずれも首相に近い麻生太郎財務相と加藤勝信厚生労働相が相反する主張を展開している。麻生氏は、全世代型社保会議では有識者の意見が「大きな方向性で一致している」として、「機は熟した。中間報告でまとめてほ

しい」と強調。窓口負担の引き上げなどに前向きだ。財務省は、団塊の世代が75歳以上になり始める2022年が迫る中、医療費を抑える仕組みを早く整えるべきだと考へて、来年の通年が党としての結論ではない」と念を押した。自民党の議論も足踏みが続く。

両党は当初、11月中旬に提言をまとめる予定だった。しかし、政府側から社会保障改革の日程や、原則2割にした場合などの試算が示されないため、ずれ込んでいた。今後、安倍晋三首相の判断が示された場合に、翻訳が生じてはいけないと相の思惑もある。

政府内では、いずれも首相に近い麻生太郎財務相と加藤勝信厚生労働相が相反する主張を展開している。麻生氏は、全世代型社保会議では有識者の意見が「大きな方向性で一致している」として、「機は熟した。中間報告でまとめてほ

しい」と強調。窓口負担の引き上げなどに前向きだ。財務省は、団塊の世代が75歳以上になり始める2022年が迫る中、医療費を抑える仕組みを早く整えるべきだと考へて、来年の通年が党としての結論ではない」と念を押した。自民党の議論も足踏みが続く。

両党は当初、11月中旬に提言をまとめる予定だった。しかし、政府側から社会保障改革の日程や、原則2割にした場合などの試算が示されないため、ずれ込んでいた。今後、安倍晋三首相の判断が示された場合に、翻訳が生じてはいけないと相の思惑もある。

政府内では、いずれも首相に近い麻生太郎財務相と加藤勝信厚生労働相が相反する主張を展開している。麻生氏は、全世代型社保会議では有識者の意見が「大きな方向性で一致している」として、「機は熟した。中間報告でまとめてほ